

インクルーシブ教育システム構築のための課題と取組 —連続した多様な学びの場における教育の充実のために—

企画者 渡邊 章 (植草学園大学発達教育学部)・竹林地毅 (広島大学大学院教育学研究科)
司会者 渡邊 章 (植草学園大学発達教育学部)
話題提供者 久嶋泰子 (豊川市立代田小学校)
後藤照代 (千葉県立桜が丘特別支援学校)
菊地一文 (植草学園大学発達教育学部)
齊藤宇開 (たすく株式会社)
指定討論者 竹林地毅 (広島大学大学院教育学研究科)

KEY WORDS : インクルーシブ教育システム, 連続した多様な学びの場

[企画趣旨]

インクルーシブ教育システム構築のための課題と取組

渡邊 章 (植草学園大学)・竹林地毅 (広島大学)

インクルーシブ教育システムの構築においては、1)地域において特別な教育的ニーズのある子どもたちが必要な支援を受けられるように、どのような支援体制を作っていくか、2)子どもたちの多様な教育的ニーズに応じた教育課程を、どのように編成して運用していけば良いか、3)子どもたちの教育的ニーズに的確に対応していくために、授業研究、現職研修、教員養成をどのように行っていく必要があるか、といった課題が考えられる。本自主シンポジウムでは、三年計画で、これらの課題に対して様々な側面から光をあて、どのような取組が必要かを検討しようとするものである。

今回の自主シンポジウムでは、第一段階として、1)通常学級においてどのような課題があるか、2)特別支援学校がセンター的機能を発揮するためにどのような課題があるか、3)特別支援教育行政としてどのような課題があるか、4)民間リソースの活用にはどのような課題があるか、という側面から提言をしてもらい、連続した多様な学びの場における特別な教育的ニーズのある子どもたちの教育を充実させるための課題を整理し、必要な取組について議論することを目的とする。

[話題提供の要旨]

1. 連続性のある「多様な学びの場」の課題と取組

久嶋泰子 (豊川市立代田小学校)

本校の特別支援学級児童数は年々増加し、現在5学級で27名が学んでいる。多様化する教育的ニーズに対応するため、教育課程を見直しているところである。特別支援学校、通常の学級の教育課程との連続性を大切にしたい、学びの場の連携や移行についての現状と課題を報告する。

2. 特別支援学校がセンター的機能を発揮するための課題と

は 後藤照代 (千葉県立桜が丘特別支援学校)

これからの特別支援学校に求められる重要な役割として、センター的機能の発揮がある。本話題提供では、小学校の通常の学級に在籍する肢体不自由児への支援をどのように行えば良いか、特別支援学校のセンター的機能を充実させるためにどのような課題があるかということについて報告する。

3. 教育行政からみたからインクルーシブ教育システム構築の課題とは 菊地一文 (植草学園大学)

インクルーシブ教育システムを構築するためには、就学前から一貫した支援を行うための「連続した多様な学びの場」をはじめとする体制整備が不可欠である。本話題提供では、転学の有無にかかわらず多様な場での学びが想定される病気の子供の学習保障を中心にその課題等について報告する。

4. インクルーシブ教育システム構築における民間リソース活用の課題とは 齊藤宇開 (たすく株式会社)

株式会社を設立して10年目、最近では東京都立特別支援学校外部支援員として、全8校、1校につき年間平均600時間(一日7時間換算で約85日)の契約を結んでいる。主に抽出型のアセスメントをして、その結果を保護者や担任に直接伝えたり、授業の評価改善のアドバイスを行っている。

[指定討論の要旨]

教育課程等の変更、関係者の協働の課題解決の方途を探る

竹林地毅 (広島大学)

障害のある児童生徒への十分な教育(授業内容が分かり、学習活動に参加している実感・達成感を持ちながら、生きる力を身に付けている)の実現を目指すためには、指導内容・方法への配慮や変更、および学校内・外(関係者・機関)の協働が不可欠だと認識・立場から、指定討論を行いたい。

(WATANABE Akira, CHIKURINJI Takeshi, KUSHIMA Yasuko, GOTO Teruyo, KIKUCHI Kazufumi, SAITO Ukai)